

首相 靖国に真榦奉納

春季例大祭 高市担当相は参拝強行

岸田文雄首相は21日、靖国神社（東京都千代田区）で始まった春季例大祭に合わせて、祭典の真榦（まさかき）を奉納しました。首相は22日までの期間中の参拝を見送る方針。また、高市早苗経済安全保障担当相が同神社を参拝したほか、加藤勝信厚生労働相が真榦を奉納しました。

2021年10月の就任後、首相は毎年春と秋の例大祭に真榦を奉納。昨年8月の終戦記念日には玉串料を納めています。

靖国神社は戦前、旧陸海軍省が管理し、戦死者など国家のために殉職した「英靈」をまつることで国民を鼓舞して戦争に動員する軍事的宗教施設で、軍國主義の精神的支柱としての役割を担いました。戦後は過去の侵略

現職首相の参拝は、13年12月の故安倍晋三氏が最後です。

岸田首相による靖国神社への真榦奉納は、侵略戦争の歴史への反省もなく改憲や敵基地攻撃能力保有などの大軍拡を進める上で、安倍政治を忠実に“繼承”する危険な姿勢をあらわにするものです。

戦争を“アジア解放の正義のたたかい”として宣伝する役割を果たしています。

同神社への首相や閣僚、国会議員による参拝や祭典などの奉納は、憲法が定める政教

21日の記者会見で「（首相は）私人の立場で奉納した」と理解しておられ、政府として見解を申し上げる事柄ではない」と述べました。

同神社への参拝や開催による参拝や祭典などの奉納は、憲法が定める政教

分離に違反し、侵略戦争を美化する同神社の歴史観を肯定するものであります。

4月23日

議連87人が集団参拝

超党派の議連「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」は21日午前、自民党、日本維新の会、立憲民主党などの87人（衆院議員61人、参院議員26人）で集団参拝を行いました。政府からは大串正樹デジタル副大臣、和

田義晴内閣府副大臣らが参加。事務局によると副大臣と政務官計11人が参拝したといいます。

日、岸田文雄首相が靖国神社に真榦（まさかき）を奉納したことなどを受けて論評を発表し、「深い失望と遺憾」を表明しました。「日本の責任ある指導級の人物」と表現し、岸田首相の指しは避けました。

論評は、「日本の責任ある人物らが歴史を直視し、過去の過ちに対する誠懇な省察と眞の反省を行って見せる」と求めました。